

「くしろ木づなプロジェクト」 実施状況について

(2012.2)

釧路市



くしろ木づなプロジェクト

- 地域の課題
地域内での、地域の木材消費向上
- 内容
地域の“結びつき”を強める、
地域材利用推進プロジェクト。

合併により広大な
森林都市となった釧路市

「木」が「つな」ぐ、市町内の“絆”

プロジェクトの事業構成

- 事業構成
3つの事業から構成



① もっと知る くしろの木

- 経験による情報の数値化、地域で共有
- 不明な点は、新たに調査

<資源状況の把握>

◎出材可能性調査
搬出容易な資源が
どの程度あるか図示化



<品質の把握>

◎強度試験、◎燃焼試験
木材としての強度等を
数値で確認

<流通状況の把握>

◎流通コスト調査
林地残材が搬出可能
か調査



適切な資源管理を基本
とした持続的・安定的な
材の供給

地域材の品質を明確に
示し、木材に対する
ユーザーの信頼を構築

流通状況の分析による、
現状流通コストの明確
化とコスト低減

<資源状況の把握>

◎出材可能性調査（林分調査）

- GPS機器購入
（10月契約、12月中旬納入）

【効果】情報蓄積、分析能力向上

【課題】操作習得、データの継続収集



<品質の把握>

◎強度試験（品質調査）

釧路市有林 間伐林分で実施

強度の高い丸太産出を確認

（音別：H23. 11. 7～8、阿寒：11. 28）



打撃音による測定



約550本実施

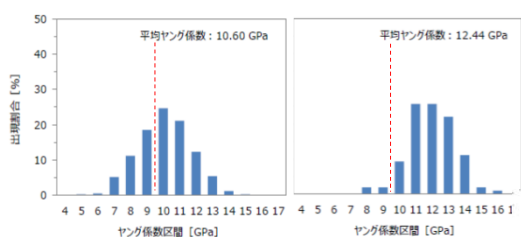
*（地独）道総研 林産試験場調査協力



<品質の把握②>

【効果】 地域材の品質等を明確に示し、
ユーザーからの信頼を構築
(間伐材のマイ付イメージ 払拭)

【課題】 強度に見合う売り先確保



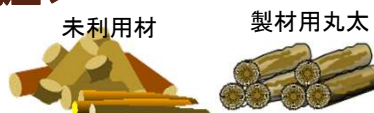
音別 約40年生 阿寒約50年生
* いずれも平均ヤング係数が10GPaを超えた



<流通状況の把握>

◎流通コスト調査

- 林地未利用材流通実証試験
(音別地区で実施: 1~2月)



未利用材(追上)量測定



積込作業



<流通状況の把握②>

《結果》 現在、調査実施中

【効果・課題】 現状コスト明確化と
コスト低減策検討



←同一林分→



② もっと使う くしろの木

- 地域内での幅広い使い道検討

<マテリアル利用>

魅力ある商品開発



<バイオマス利用>

ボイラー見学会



地域材の付加価値を
高めた利用方法の浸透

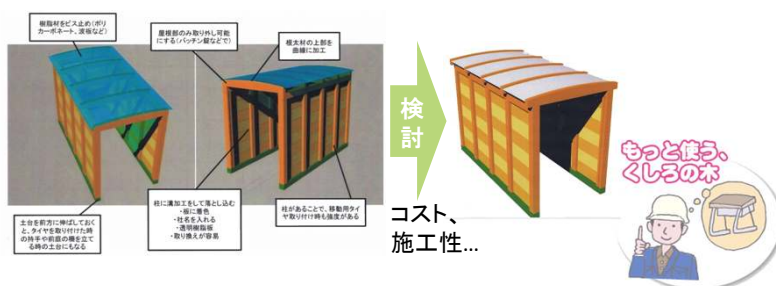
効率的な運用方法の
確立

<マテリアル利用>

◎商品開発（試作）

円卓会議メンバー等と連携した
商品試作（10月～）

<検討例> 《カウハッチ(月齢0～2か月の子牛用)》



<マテリアル利用②>

《結果》

現在、商品試作・デザイン作成中
(この他、フローリング、机・椅子)

【効果】

付加価値を高めた地域材利用方法
浸透（地域材需要拡大・新規開拓）

【課題】

多くのユーザーのニーズ
にあった商品か検証が必要



③もっと伝えるくしろの木と技

- 地域材継続利用のための人材育成
- 利用するエンドユーザー(応援団)増加

<経験の伝承>

◎人材研修

工務店・設計段階での
地域材利用をすすめる
ための研修会



<域内利用の普及>

◎木造建築MAPなど
市民等に対する普及啓発



地域において求められる
(正しい知識や技術ある)
人材の安定確保

「情報」をユーザーに提供し、
地域材利用に対する信頼感
を獲得

<経験の伝承>

◎人材研修

区分	1回目	2回目
開催日時	平成23年10月27日	平成23年11月29日
参加人数	36名	32名
講演内容	「木材乾燥に関する基礎知識」 「道産材を用いた木質防火材料 (事例紹介)」	「カラマツ材の強度に関する基礎知識 (釧路市有林での試験結果)」 「地元木材を使用した市の公共施設」
講師	(地独)道総研林産試験場 北橋研究職員、河原崎研究主任	(地独)道総研林産試験場 松本主 査、釧路市都市整備部 香川次長



座学



実演

もっと伝える、
くしろの木と技



＜経験の伝承②＞

研修は、年度内にあと2回開催予定
 (遮音2/7、木材塗装2/27開催)

【効果】

- 正しい知識や技術ある人材安定確保
- ・メンバー以外の工務店等も参加
 - ・”参考になった”という意見も複数

【課題】

研修希望内容が多岐
 <参加者アンケート>

もっと伝える、
くしろの木を



＜域内利用の普及＞

◎木造建築MAP作成 (3月)

釧路管内の公共施設等対象(24p)

(管内市町村担当係へ事前説明…12月)

◎イベント (3月) 出展



【効果】一般市民に対する
 具体的な普及ツール確保

もっと伝える、
くしろの木を

【課題】普及啓発実施後に評価



今後の展開

- 今年度、実施時の課題等解決
- 円卓会議での議論をもとに組み立て（年度内に開催予定）



地域材利用の共通認識を
高め、目的達成へ

<本日の話題>

○イベントでの普及<地域材利用>

“川上”側から川下（消費者）への
アプローチ、伝える内容・手法
（過去のイベント経験等より）

<メンバー協力提案：カラマツ間伐木20m展示>

○新たな技術の活用

G I S ・ G P S（路網・収穫・ナビ・
マップ）、衛星画像 <情報交換>